

平成19年度サンゴ礁モニタリング調査結果

NO.1

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数		被度		状況
			19年度	18年度	19年度	18年度	
奄美市	388,000	宮古崎	44	2.5	20%	20%	サンゴ被度20%。ハナヤサイサンゴ'優占。オニヒトデ'の被食率30%で、ハナヤサイサンゴ'が食害を受けている。
		宮古崎東	20.5	38.5	0%	30%	サンゴ被度ほぼ0%。オニヒトデ'食害により壊滅状態。
		デン浜	53.5	264.5	0%	30%	サンゴ被度ほぼ0%。オニヒトデ'食害により壊滅状態。
		知名瀬大浜	18.5	11	5%未満	20%	サンゴ被度5%未満。礁斜面のサンゴ'は壊滅状態。礁縁に小型ミドリイシ類'が少数残る。
		大浜	21	8	5%未満	15%	サンゴ被度5%未満。礁斜面のサンゴ'全滅は免れたものの、ミドリイシ類'はほぼ全滅。礁縁に小型ミドリイシ類'残る。
		摺古崎	49	0	5%未満	5%未満	サンゴ被度5%未満。大型のオニヒトデ'の侵入が見られ、優占するハナヤサイサンゴ'が食害を受けている。
		赤崎	0	0	0%	0%	サンゴ被度0%。オニヒトデ'も見られない。
		名瀬湾立神	9	0	0%	0%	サンゴ被度0%。ごく少数生存しているノウサンゴ'を大型のオニヒトデ'が被食している。
		山羊島	19.5	0	10%	30%	サンゴ被度10%、ハマサンゴ'優占。クサビイシ類'はほぼ全滅。エダハマサンゴ'群落にオニヒトデ'が見られる。
		キョンナ	0.5	1.5	0%	10%	サンゴ被度0%。礁縁では昨年度被度10%まで回復してきたミドリイシ類'が食害により全滅。
		有良	0	8.5	0%	15%	サンゴ被度0%。昨年15%あったサンゴ'がオニヒトデ'食害によりほぼ全滅。
		芦花部	0	1	0%	5%未満	サンゴ被度0%。昨年5%あったサンゴ'がオニヒトデ'食害によりほぼ全滅。
		摺古崎礁池	3	0.5	30%	50%	サンゴ被度30%。エタ'コモンサンゴ'とチジ'ミウス'コモンサンゴ'の群落。オニヒトデ'の食痕が見られる。
		摺古崎礁原	1.5	38.5	5%未満	5%未満	サンゴ被度5%未満。直径20cmほどに成長したミドリイシ'も少数見られるが、オニヒトデ'食痕多い。
		大浜礁池	4	6	5%未満	5%未満	サンゴ被度5%未満。ミドリイシ類'もごく少数見られる。礁斜面ではオニヒトデ'が大量発生している。
		崎原南	1.5	2.5	20%	30%	サンゴ'被度20%。オニヒトデ'食害により樹枝状ミドリイシ'群体の多くが死滅。オニヒトデ'は減少。白化なし。
		崎原東	0	0	70%	60%	サンゴ'被度70%。卓上ミドリイシ'優先。オニヒトデ'食痕もなく、健全なサンゴ'。白化なし。
		小湊南	0	0	40%	30%	サンゴ'被度40%。ハナヤサイサンゴ'優占。オニヒトデ'食痕なし。白化なし。
		奄美市	381,000	用安	9	18	25-49%
節田	6			12	25-49%	0-24%	サイズは小さいが、サンゴの間などにいる。
蒲生崎	3.5			5	25-49%	0-24%	まばらに見られた。
赤木名先	4			7	25-49%	0-24%	まばらに見られた。
前肥田沖	1.5			6	25-49%	0-24%	まばらに見られた。
奄美市	284,000	黒崎沖	3	3	0-24%	5%未満	サンゴ'被度は前回と変わらない。
		スタル沖	6	40	0-24%	25-49%	前回よりサンゴ'は減っているが、新規加入のミドリイシ'も見られる。
		市崎沖	11	0	0-24%	5%未満	前回より減少しており、白化も見られる。
		和瀬沖	0	1	0-24%	5%	雨が降っていないのに少し濁りがあった。サンゴ'被度は前回と変わらない。

平成19年度サンゴ礁モニタリング調査結果

No.2

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数		被度		状況
			19年度	18年度	19年度	18年度	
大和村	666,000	今里立神	0	13	25%	30%	オニヒトデなし。調査区域外での情報があり、季節的に移動していると思われる。
		小浜	0	17	25%	30%	オニヒトデなし。村境周辺海域に移動したと考えられる。
		名音	1	69	30%	40%	調査地点では1匹であるが、離れた場所では数匹確認できた。
		名音隧道	0	9	25%	30%	オニヒトデなし。
		西浜	0	7	25%	30%	オニヒトデなし。
		トルス	0	75	30%	40%	夏場の駆除効果が大きく、オニヒトデなし。
		マッコ	0	—	30%	—	オニヒトデなし。夏場の駆除効果と推測。
		石川	0	—	25%	—	調査地点では1匹であるが、離れた場所では数匹確認。周辺にはいると思われる。
		親川	1	—	30%	—	オニヒトデ1匹確認。
		宮古崎	1	—	25%	—	調査地点外で確認。季節的に集まるのではないかと推測される。
		ヒエン浜(中央)	0	0	30%	25-49%	オニヒトデなし。夏場の駆除効果と推測。卓上ミドリイシ・塊状キクメイシ混成。
		ヒエン浜(戸円沖)	0	0	30%	25-49%	オニヒトデなし。夏場の駆除効果と推測。卓上ミドリイシ・塊状キクメイシ混成。
宇換村	198,000	屋鈍	0		50-74%		
		平田タエン浜	0		50-74%		
		アヨ崎	0		25-49%		
		クラキ崎	0		25-49%		
龍郷町	390,000	円	0	0	0-24%	0-24%	
		円へ嘉渡	0	0	0-24%	0-24%	
		今井崎	0	0	25-49%	50-74%	
		倉崎	2.5	0	0-24%	25-49%	
		戸口(白浜)	0	—	25-49%	—	
		戸口(落水地先)	0	—	25-49%	—	
		白浦(北)	0	0	25-49%	25-49%	
		白浦(南)	0	0	25-49%	25-49%	
		赤尾木(中央)	0	0	0-24%	25-49%	
戸口(アウン)	31	5	25-49%	25-49%			

平成19年度サンゴ礁モニタリング調査結果

NO.3

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数		被度		状況
			19年度	18年度	19年度	18年度	
喜界町	390,000	花良治	0	—	25-49%	—	オニヒトデ食痕なし。卓上ミドリイシ多し。
		池治	0	—	5-25%	—	卓上ミドリイシ、ソフトコーラル多し。
		塩道	0	—	5-25%	—	10cm以下のサンゴあり。オニヒトデの食痕なし。
徳之島町	150,000	畦	0.5	6	75-100%	50-74%	レイシガイの被食は目立つ。
		母間	3	—	25-49%	—	
		山	3.5	—	25-49%	—	
天城町	381,000	松原漁港沖	2	0.5	15%	0-24%	前回同様ミドリイシ、キクメイサンゴの被度は15%程度で、あまり変化はない。
		浅間沖	0	0.5	10%	0-24%	生きたサンゴが少ないためか、オニヒトデの数も減少。
伊仙町	180,000	喜念崎	8.5	21	25-49%	50-74%	オニヒトデのサイズが大きくなり、生息密度が濃い。
		佐弁	4.5	52	25-49%	50-74%	シロコサンゴ、ミドリイシサンゴ系の被食が目立つ。
		面縄	2	—	25-49%	—	シロコサンゴ、ミドリイシサンゴ系の被食が目立ち、多少白化も確認された。
		西伊仙	1.5	—	25-49%	—	枝サンゴにレイシガイが目立った。
和泊町	442,000	西原	0	0	75-100%	50-74%	
		出花	0	0	25-49%	25-49%	
		ワンジョ	0	0	75-100%	75%以上	レイシガイが確認された。
		イダシチ	0	—	25-49%	—	レイシガイが確認された。
知名町	193,000	屋子母	0	0	5-25%	0-24%	塊状のサンゴが多い。オニヒトデはなく、レイシ貝が多い。
		屋者	0	0	0-24%	0-24%	レイシガイが多い。白化の現象がある。
		沖泊	0	—	5-25%	—	レイシガイが非常に多い。
与論町	424,000	供利沖	0	0	0-49%	0-49%	死滅したサンゴが広がっており、オニヒトデなし。2年から3年もののサンゴに食害有り。
		皆田沖	0	0	25%未満	0-49%	オニヒトデの食痕が数カ所見られた。ハナヤサイサンゴ、コブハマサンゴ等を確認。ミドリイシ類は少ない。
		茶花沖(北側)	0	0	0-49%	0-49%	比較的サンゴの生育は良い。オニヒトデの食痕はないが、レイシ貝による被害がある。
		茶花沖(南側)	1	0	25-49%	0-49%	浅瀬に1匹確認。食害あり。比較的サンゴの生育はいいと思われる。
		赤崎沖(航路沖)	0	0	25%未満	25-49%	レイシ貝を確認。昨年よりもサンゴの生育が若干少ない。
		赤崎沖(テトラ側)	0	1	0-49%	0-49%	オニヒトデ、レイシ貝は発見できず。岩盤や既に死んでしまったサンゴの上に、直径105cm位の新しいサンゴが点在していた。
合計	8,122,000						